

CTED NewsLetter

Center for Teacher Education and Development, Okayama University

全学教職課程

履修ハンドブック第3版刊行

全学教職オリエンテーションで配付

第3版の刊行と一貫したコンセプト

『教職課程履修ハンドブック』とは、全学教職課程を履修する学生さんのために、教師教育開発センターが作成・刊行している教材のひとつです。平成23年に第1版、平成25年には第2版を刊行しました。今年4月に刊行した第3版では、全学の60分授業・4学期制への移行に対応すべく、内容を抜本的に見直しました。教師教育開発センター教員・事務スタッフの皆様、教育学部教務学生係の皆様への献身的なご尽力はもとより、各課程認定学部の教務学生係担当の皆様から貴重なご示唆・ご提言をいただきました。この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

5年前に第1版を刊行した際、執筆と編集に携わった私たちには、ひとつの思いがありました。それは「本書を単なる教職課

程履修マニュアルにはしない」ということでした。当時、国立大学で開放制教職課程の質保証を担う全学組織は皆無でした。私立大学には、いわゆる教職センターの組織を有する大学もありましたが、機能的には就職支援の要素が強いものでした。様々な大学が教職課程用に刊行している資料を収集し検討しましたが、いずれも履修手順の解説という色合いが強かったのです。

もちろん、教職課程の履修に係る事務的なスケジュールや必須科目・要件等を遺漏なく伝えることは重要です。しかし当時の私たちは、そうした解説に加えて、①本学教職課程の理念やミッション（＝課程認定学部の専門教育に支えられた、優れた実践的実践力をもつ中等教育教員の養成）を明確に伝えること、②シラバスだけでは伝えきれない「教員養成コアカリキュラム」の意義と価値、課程認定学部での学習と教職課程の繋がりを伝えること、③教員採用をめぐる全国動向や本学の教員免許取得状況・教員採用状況を伝えること、④教職に向けて、さらに自分自身を高めるための機会や情報を提供すること、といった4つを盛り込むことにしました。つまり、入学から卒業まで、教職に向かう自分自身を折々に確認し、学生のみなさんが自ら学び取る要素を多く含む「教材」を創ろうと考えたのです。これが、今回の第3版に至るまで一貫して流れている本書のコンセプトです。現物はセンターHPの下記URLにありますので、是非アクセスしてご覧ください。

<http://cted.okayama-u.ac.jp/curriculum/handbook/>



全学教職オリエンテーション実施!!

5月11日(水)、13日(金)、25日(水)、27日(金)の7・8限に1年生対象の全学教職オリエンテーションを開催しました。今年度は教務日程の都合で、新年度当初の履修相談会を開催できませんでした。例年と遜色なく、全体(前半部)で236名の参加がありました。このうち、母校訪問計画書を提出し、教職課程の履修を明確に意思表示した学生は197名でした。母校との調整に係る一連の事務手続においても目立ったトラブルはありませんでした。各課程認定学部の指導教員の先生方、ならびに受入にご協力頂いている県内外の高校の先生方のおかげです。本当にありがとうございます。

オリエンテーション終了時に実施した学生対象の意識調査結果から、「母校訪問」という本学独自のプログラムが高校側に浸透してきていること、教職を積極的に志し、魅力を感じている学生が増えていることが分かりました。今後も休むことなく、本学教職課程の質保証に取り組んでまいります。 【文責：高旗浩志】

TOPICS
今号の主な記事

- 【特集】教職課程履修ハンドブック第3版刊行
- 【報告】教師力養成講座第1回～第3回
- 【報告】岡山大学スクールラティファ2016
- 【報告】CST基幹講座(自然から学ぶ施設)
- 【報告】岡山市教育委員会との専門部会、岡山県教育委員会との専門部会
- 【連載】《教員リレーエッセイ》
教職リレーの部門 今井康好 教授(特任)
- 【連載】教員採用試験のツボ その十七「模擬授業の力をつけよう」
- 【連載】教員採用試験受験記：森川雄介さん(教育学部)
- 【案内】スクールラティファ2016-学生スタッフ募集
- 【案内】平成28年度 第5～7回教師力養成講座日程案内
- 【掲示板】教採情報ほか

教師力を身につけるための講座を実施！

学生
向け

第1回教師力養成講座 「教員に求められる使命感や 責任感、教育愛」について



本年度第1回講座には、岡山市教育委員会事務局審議監三宅泰司先生をお迎えしました。小学校や教育委員会での勤務のご経験をもとにお話をいただきました。

前半は、特別支援教育について、「特別支援教育は、特別ではなく、どの子にも大切な教育であること」「子どもの困り感に寄り添う教育を進めること」を基本に、支援のポイントを具体的な例をもとに話されました。分かりやすい掲示や時程表、目標の達成が見えるがんばり表などから、子どもに伝わる工夫を学びました。先生はまとめとして、4月から施行された障害者差別解消法と学校教育との繋がりについて話をされました。

後半は、求められる教師力について話されました。場の空気を生み出す技術としてきっかけを提示して相手の話を聞く対話力が必要なこと、法の基礎を知って自分の行動を制御できる倫理観が求められることなどをグループワークを通して学びました。

参加者のアンケートには、「教師は子どもの未来を左右する責任のある仕事なので、覚悟を持ってがんばりたい」「子どもに伝わりにくい指示をしていないか。このことについて、考えさせられました」「子どもの立場に立って物事を考える、言葉にするということの大切さを改めて感じました」などの感想がありました。

【文責：武藤幹夫】

第2回教師力養成講座 「学級を中心とした集団づくり」

第2回講座には、総社市立総社東中学校久山延司先生をお招きしました。中学校教諭や岡山県教育庁勤務などのご経験をもとにお話をいただきました。

まず、教職員として必要な素養について話されました。教職員として心がけたいこととして、「できない理由を考えるのではなく、できる方法を考える」「子どものためにという視点を第一にして、判断し行動する」など12項目を紹介されました。次に、教職員が自らの行動を決める判断の視点として、「①法令や制度 ②社会通念 ③組織の方針 ④相手にとってどうか ⑤自分にとってどうか」を挙げられました。

後半は、「友達感覚の学級経営」「厳しく管理する学級経営」「不登校」という3つの事例をもとに、グループ討議を通して問題点と対応策を考えました。グループからもすばらしい視点を含んだ意見が出されました。先生は、「教員経験によって事例の見え方は違う。経験の少ない皆さんは、事例を想定して自分の行動をイメージすることが大切だ。」とまとめられました。

参加者のアンケートには、「素直、明るさ、謙虚さ、前向きさをもってこれからの人生を過ごしていこうと思いました」「具体的な事例を通じて、活発な話し合いの中で、自分の意見や考えを持つことができました」などの感想がありました。

【文責：武藤幹夫】



第3回教師力養成講座 「生徒指導とクレーム対策」



第3回講座には、子どもの問題行動や保護者との信頼関係に関わる課題解決に取り組んでおられる岡山市教育委員会指導課一守和弘先生においでいただきました。

初めに生徒指導提要の記述やいじめ定義の変遷をもとに、生徒指導の理解を進めました。生徒指導にあっては「当面しなければならぬもの」と「その奥底にあるもの」との二つの指導があります。また指導には、日常すべての子どもに行っている支援（1次的支援）、兆しを察知し一部の子どもに行っている支援（2次的支援）、特定の子どもに行う個別支援（3次的支援）があります。最も大切なのは1次的支援です。それができていれば、個別支援の必要性は減少します。指導の基本として大切なことは、子ども同士を繋ぐ支援を進めることです。

後半は、具体的な事例をもとに、グループで対策を話し合ったり、クレームへの模擬電話対応をしたりして、具体的なポイントを確かめていきました。

アンケートには、「クレーム対応、生徒指導というと個への対応のイメージでしたが、それは表面上のもので、真の要求に対して対応していく1次的支援の重要性を強く感じた」「これまでは表面上の具体的な部分しか考えていなかったが、その原因たる心情を考える重要さがわかりました」などの感想がありました。

【文責：武藤幹夫】



この講座を含め、過去7年間の講座はDVDとして録画保存しています。教職相談室でDVDを視聴し、教員も加えてグループで意見交換をするという形での勉強ができます。ぜひ、積極的に活用してください。

岡山大学スクールボランティアフェア2016 ～スクールボランティアを見つけよう!～

5月21日(土)に、岡山大学創立五十周年記念館において、「岡山大学スクールボランティアフェア2016」を開催しました。今回で3回目を迎えるこのイベントは、岡山県内の教育委員会や学校、社会教育施設等の関係者に、学生ボランティアを募集するための説明ブースを出展していただいています。学校支援ボランティアに取り組む意欲のある学生が直接各ブースを回り、そこで説明を受けて興味を持てば活動が始められるきっかけ作りを行うことを目的としています。

当日は他大学を含めて66名の学生が参加し、出展ブースとしては18団体40名の方が協力してくださいました。学生は興味・関心のあるブースを次々と訪問し、担当者からの説明に熱心に耳を傾け、早速活動が決まった学生もいました。

また、このイベントは「スクールボランティアビューロー学生スタッフ」の4名が中心となり、企画・運営を行いました。当日は、趣旨説明の後、アイスブレイクとして「聖徳太子ゲーム」を行い、最後に各ブースごとに1分以内でのブース紹介を実施しま



した。事前の打ち合わせ会や準備やリハーサルに、スタッフは大変前向きに取り組み、素晴らしいフェアを開催することができたと思います。

【文責：近藤弘行】

CST基幹講座(自然から学ぶ施設)

CST基幹講座として、6月25日(土)に倉敷市立自然史博物館で、自然史の専門および科学普及について学びました。特に、今回講師としてお迎えした奥島雄一学芸員は、昆虫がご専門で、小・中学生がいかに昆虫と向き合っていくか、そのためには、教師と学校、学芸員と博物館はどのような支援が必要なのか、どのような工夫をすると、その支援ができるのかということをお学びました。



児童生徒への理科授業を充実させるためには個々の教師や学校だけでは難しい場合もあります。博物館の工夫や連携の様子を、学芸員の方から直接お聞きできたことで、理科授業の充実のヒントを得ることができました。レポート課題として、展示の工夫について調べて10個以上のポイントを解説するようにしました

が、小さな工夫も含めて、多くの収穫があったと思います。

今回の講座には、現職と学生合わせて46名のCST生、引率者4名の合計50名で参加しました。

【文責：稲田佳彦】



<教員採用試験受験記> 岡山市 小学校教諭 合格

教育学部 学校教育教員養成課程
小学校教育コース(教育学専修)
森山 雄介 さん

みなさんは教採に向けてどのような対策をしていますか?不安を抱えながら過ごされている方も多いかと思います。

私は、昨年度から新設された英語枠で受験しました。実際の試験では、英語教育において、面接や模擬授業・口頭試問など

様々な場面で問われます。もちろん、小学校の質問が大半ですが、英語に関するものに答えられるよう準備をしておく必要があります。そこで大切にしたのは、相談室をはじめ、自ら出向いていくことでした。英語科の先生へ模擬授業対策のためにアドバイスをいただきに行きました。また、英語科の友達や他校種の英語を受ける友達と授業や教育観などについてじっくり話をしま

した。

こうして、しっかりと意見を交わしたことは、試験対策になるだけでなく、自分自身の教育に対する考えを深めることにもつながります。今だからこそ、たくさんの考えを吸収し発信していくことを大切に頑張りたいと思います。応援しています。

教員採用試験の ツボ その十七「模擬授業の力をつけよう」

連載

教員採用試験に向けた取組もいよいよ二次試験対策に入ってきました。今回は、二次試験の内容の中から「模擬授業」のツボを取り上げます。

多くの都道府県が授業の導入部分を指定しています。時間の長短があり一概には言えませんが、通常始まりの挨拶からめあて(課題)をもつあたりまでとなります。ここでのツボは、教師が一方向的にめあて(課

題)を提示するのではなく、児童生徒の興味・関心を引き出し、課題意識を高めることです。できるだけ児童生徒の発言からめあて(課題)の言葉をまとめる形でつくっていききたいものです。

また、授業の展開部分を求めている都道府県もあります。この場合のツボは、活動の工夫です。1時間の授業で児童生徒につかませたいものをまず先に考えてから、そ

れを導く活動を工夫すればよいでしょう。

面接官が子ども役になったり、ならなかったりまちまちですが、いずれにおいてもクラス全員に心を向け進めることを忘れてはなりません。隅々への目線、笑顔を忘れず、児童生徒の発言をしっかり受け止め賞揚し、児童生徒全員とつくる授業を表現しましょう。

【文責：河内智美】

ここでは最新の情報の一部を掲載しています。さらに詳しい情報や最新の情報は掲示板等をごらんください。

教員・講師等募集情報

- 法政大学第二中・高等学校 専任教諭募集
- 如水館中学校・高等学校 常勤講師等募集
- 岡山中学校・岡山高等学校 常勤講師等募集
- 学校法人市邨学園 専任教員募集
- 西南学院小学校 専任教諭募集
- 大阪女学院中学校・高等学校 専任教員募集
- 明星学園小学校 専任教諭募集

スクールボランティア募集情報

- 和気公営塾スタッフ(和気町役場)
- 高校受験対策学習会スタッフ(岡山市立妹尾中学校)
- 学校支援ボランティア(岡山県立岡山支援学校)
- 渋川マリズ(岡山県渋川青年の家)
- 病気の子どもの学習・復学支援(ポケットサポート)

教員リレー・エッセイ「未来への挑戦」

副センター長

教職コラボレーション部門 今井 康好 教授(特任)

高校生のスポーツの祭典「全国高校総体」の総合開会式が7月28日、ジップアリーナ岡山でありました。選手代表が「多くの人に笑顔の華を咲かせることができるよう、全力で競技する」と力強く宣誓した厳かな式典、高校生の力を結集したダイナミックで流れのある公開演技は素晴らしかったです。何より大会を支える高校生の笑顔とおもてなしの心に深く感動しました。岡山県でのメイン開催は、私が教員採用試験に挑戦した1977年夏以来で、その時始まった「友情の花の種」のリレーが、39年の時を経て岡山に戻ってきました。高校の教師になって、バレーボール、卓球、陸上競技、バドミントンを指導する機会に恵まれました。「教師の流した汗に比例して生徒は伸びる」という先輩の言葉を胸に、若い頃は生徒と一緒に走る毎日でした。教師8年目の夏、石川インターハイ総合開会式で生徒と共に進んできたことは、今でも心の財産になっています。スポーツにおいても、研究や仕事においても、最後に勝負を決めるのは、体力と気力だと思います。失敗を恐れず、最後まで諦めず、挑戦し続けることが未来に繋がります。昨年秋の第1回おかやまマラソンは、「挑戦することで多くのことが見えてくる」「目標を立てて計画的に取り組むことで大きな力が出せる」「みんなからの応援で精神的に強くなれる」ことを教えてくれました。皆さんには、未来に向かって夢と目標を描き、様々なことに積極的に挑戦して欲しい、と期待しています。若いときの挑戦は、結果はどうであれ、全て将来の力になります。



岡山市教育委員会との連携協力会議専門部会、岡山県教育委員会との連携協力会議専門部会

岡山大学では、岡山県教育委員会及び岡山市教育委員会と相互に連携協力して、教員養成や教員研修、教育上の諸課題に一体となって取り組んでいます。5月30日に岡山大学教育学部で、岡山市教育委員会との連携協力会議専門部会を開催し、「初任者が職務を円滑にスタートできるようにするための連携の在り方」などについて協議を行いました。子どもとの接し方や保護者との関わり方などについて、大学と教育委員会が連携して取り組む方策などについて意見が交わされました。



また、岡山県教育委員会との専門部会は6月27日に開催され、「岡山県公立学校教員等人材育成基本方針」などについて協議をしました。大学との連携による養成・採用・研修の一体的改革について議論が深まり、教職の魅力をアピールしていく必要性などが共有されました。今後も、三者が一層連携を深め、教職を目指す学生の力量の向上を図るとともに、岡山県・岡山市の教育の発展に努めてまいります。



【文責：今井康好】

スクールボランティアビューロー 学生スタッフ募集中！

スクールボランティアの実践・支援活動や
スクールボランティアフェアの開催などを
行っています。

スクールボランティアに関心のある学生は
気軽にお問い合わせください！

【お問い合わせ先】
岡山大学 教師教育開発センター スクールボランティアビューロー
教育学部 本館 2階 201事務室(担当:藤原、佐々木)
TEL: 086-251-7728
メールアドレス: cted@okayama-u.ac.jp

平成28年度 第5・6・7回教師力養成講座のご案内

今号、2頁で紹介しております「教師力養成講座」の今年度後半の日程をお知らせいたします。4年次生はもちろん、3年次生も参加してください。

◆第5回

●日時 平成28年12月21日(水) 14:00~16:00

◆第6回

●日時 平成29年1月11日(水) 14:00~16:00

◆第7回

●日時 平成29年2月15日(水) 14:00~16:00

★講座内容・会場等は、決まり次第お知らせします★

